

小学校新入生と保護者を対象とした学校文化に関する情報提供の検討

Consider Providing Information on School Culture for New Elementary School Students and Their Parents

川出 莉紗^{*1}, 今井 亜湖^{*1}
Risa KAWAIDE^{*1}, Ako IMAI^{*1}

^{*1} 岐阜大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, Gifu University

Email: y1027403@edu.gifu-u.ac.jp

あらまし: 本研究では、小学校の入学予定児を持つ保護者の学校文化に関する不安の要因を明らかにするため、入学説明資料に着目し、学校文化に関する情報提供について検討した。284校 307種類の入学説明資料を各校のwebサイトから収集し、それらの資料をもとに学校文化に関する情報の内容を分析し、入学前の学校文化に関する情報提供のあり方について検討した。その結果、(1)入学前に説明する必要がある情報のみに絞ること、(2)学校独自のルール等の情報は詳しく説明すること、(3)誰に向けて伝えたい情報かを明確にすることの3つの配慮すべき点があることが明らかになった。

キーワード: 学校文化, 情報提供, 小学校新入生, 保護者

1. 研究背景

小学校入学について、細川ら(1998)は、入学予定児を持つ保護者が「登校の支度」「あいさつや返事」といった入学までに子どもに身につけさせたい習慣に関する不安が大きいことを明らかにした⁽¹⁾。こうした保護者の中には、外国人保護者も含まれる。林(2017)は、入学予定児を持つ外国人保護者が挨拶・生活・学校規則・登校などの日本の学校文化の説明を必要としていることを明らかにした⁽²⁾。これらの結果より、入学予定児を持つ日本人保護者と外国人保護者は、双方とも挨拶や登校といった学校文化に関する不安を抱えているといえる。

学校文化とは、『新版 学校教育辞典』(2003)によると、「学校は一つの自律した組織・集団として日々活動が営まれることから、そこに一定の文化(行動様式)が生まれる」と定義されている⁽³⁾。日本の公立小学校は義務教育であり、その制度は学校教育法によって定められ、その教育内容は学習指導要領で決められているため、日本の公立小学校は共通する学校文化を持っていると考えることができる。外国人保護者だけでなく、日本の学校文化に親しんでいると考えられる日本人保護者でさえ、学校文化に関して不安を抱いている現状を鑑み、本研究では、その不安の要因を明らかにする必要があると考えた。

2. 研究目的および研究方法

そこで、本研究では、学校文化に関する不安を抱く入学予定児を持つ保護者が存在していることに着目し、入学予定児およびその保護者が理解しなければならぬ日本の学校文化に関する情報を明らかにした上で、入学予定児およびその保護者に対する入学前の学校文化に関する情報提供のあり方について検討する。

そのために、次の手順に従って研究を行う。手順

(1)「入学予定児およびその保護者に学校文化を伝える媒体の調査」では、日本の公立小学校において、入学予定児およびその保護者が学校文化に関する情報をどのような媒体から得ているかを明らかにする。手順(2)「入学予定児およびその保護者に提供されている学校文化に関する情報の調査」では、手順(1)で明らかにした媒体から、各学校が提供している学校文化に関する情報を明らかにし、それらを石附ら(1992)が示した【コト的な側面】と【モノ的な側面】⁽⁴⁾にて分類し、その情報の特徴を明らかにする。この2つの側面は、「より狭い意味での学校文化」を行動様式と物質的・空間的なものに区別した視点である⁽⁴⁾。手順(3)「各学校の学校文化に関する情報の内容の分析」では、手順(2)で明らかにした学校文化に関する情報を分類項目ごとに分析する。手順(4)では、手順(1)~(3)までの結果をもとに、入学予定児およびその保護者に対する入学前の学校文化に関する情報提供のあり方について検討する。

3. 結果および考察

本研究では、入学予定児およびその保護者に学校文化に関する情報を伝える媒体として入学説明資料に着目し、北海道から沖縄県までの284校 307種類の資料を各学校のwebサイトから収集した。

入学説明資料の種類は、冊子、プリント、動画、一覧表の4種類であった。冊子とは、学校生活や入学手続きについて10~30ページ程度で説明したものの、プリントとは、持ち物や服装の参考写真や保護者からの質問例など、一部の情報だけを取り出して1,2ページで説明したものの、動画とは、入学説明会の様子あるいは入学説明会で説明できなかったことなどを10分~1時間程度の動画にしたもの、一覧表とは、「生活」「学習」「その他」の3つのカテゴリーに対し、6項目の情報を表で説明したものである。

これらの入学説明資料で提供されている学校文化に関する情報は、23項目に分類できた。さらにこれらの項目を【コト的な側面】と【モノ的な側面】に分類し、各項目ごとにその情報を提供している学校数とその全体に占める割合を調査した。その結果を表1に示す。

表1 学校文化に関する情報とその提供校

分類(2)	項目名(23)	学校数(284)	割合(%)
コト的な側面	登下校	225	79.23%
	学校連絡	165	58.10%
	入学までに身につけておきたいこと	165	58.10%
	欠席等のルール	163	57.39%
	保健室・保健関係	160	56.34%
	傷病時の対応	159	55.99%
	日課表	150	52.82%
	学校感染症の対応	139	48.94%
	授業・学習	121	42.61%
	給食	115	40.49%
	年間行事予定	107	37.68%
	校外での約束	106	37.32%
	学校生活の約束	105	36.97%
	食物アレルギーの対応	103	36.27%
	授業外の教育活動	71	25.00%
	家庭学習	68	23.94%
特別支援学級	53	18.66%	
災害時の対応	49	17.25%	
メディアルール	40	14.08%	
モノ的な側面	持ち物	267	94.01%
	服装	241	84.86%
	学校徴収金・引き落とし	157	55.28%
	学校一括購入品	94	33.10%

表1の50%以上の学校で提供されている情報に注目し、【コト的な側面】と【モノ的な側面】の情報提供の特徴を分析すると、【コト的な側面】の情報では、登下校などの学校生活をおくる上で必要な情報を中心に提供されており、【モノ的な側面】の情報では、家庭で準備する持ち物や服装に関する情報が提供されていることが明らかになった。逆に、50%未満の学校でしか提供されていない【コト的な側面】の情報では、災害時の対応といった入学後に伝えても遅くない情報、家庭学習やメディアルールといった家庭で行われることに関する情報、【モノ的な側面】の情報では、家庭で準備する必要がない学校一括購入品に関する情報であることが明らかになった。

さらに、表1に示した項目ごとにその内容を分析した結果、例えば、「授業・学習」については、人の話を静かに聞くことや平仮名の読み書きをできるように準備しておくことについて説明している学校もあれば、その学校の授業時のルールやそれぞれの教科で何を学ぶかを説明している学校など、同じ項目

であっても、学校によって説明されている内容が大きく異なっている項目が複数確認された。

以上の結果より、入学予定児およびその保護者に対して、入学前の学校文化に関する情報提供のあり方について検討した結果、3つの配慮すべき点があると考えた。1つ目は、大量の情報を一度に提供すると、入学予定児およびその保護者を不安にさせる要因になりかねないため、入学前に説明する必要のある情報のみに絞ること、2つ目は、その学校の学校文化に親しんでいない入学予定児の保護者のために学校独自のルール等の情報は詳しく説明すること、3つ目は、入学説明資料には子どもが準備することと保護者が準備することが混在しており、誰が理解しなければならぬ情報が明示されていないものがあつたため、その情報が誰に向けて伝えたい情報であるかを明確にすることが挙げられる。

これまで「学校文化」については、行動規範のみの視点で捉えられ、物質的・空間的なものも含めて検討されている研究はなかった。本研究では、【コト的な側面】と【モノ的な側面】の2側面から学校文化に関する情報の特徴を明らかにし、今後の学校文化に関する情報提供のあり方を見直すという点において、意義があると考えられる。

参考文献

- (1) 細川かおり, 伊藤輝子, 岩崎洋子, 朴淳香: “227 来年度入学予定児の小学校入学に対する不安と期待に関する研究(1): 子どもおよび保護者の不安について”, 日本保育学会大会研究論文集, 51, pp.456-457 (1998)
- (2) 林恵: “外国にルーツがある子どもの就学に向けた子どもと保護者への支援: 外国人保護者への調査から”, 帝京短期大学紀要, 19, pp.33-42 (2017)
- (3) 今野喜清, 新井郁男, 児島邦宏: “新版: 学校教育辞典”, 教育出版株式会社, 東京, pp.139-140 (2003)
- (4) 石附実, 矢野裕俊, 添田晴雄, 岡本洋之: “近代日本の学校文化誌”, 思文閣出版, 京都 (1992)